

心の輪33R



『**りんごの何を食べるのか**』という資料を通して、
『**真の豊かさ・ぜいたく**』について考えました！

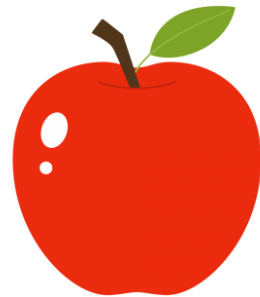


外でごはんを食べると美味しく感じるのはなぜだろう？



誰かと一緒にごはんを食べると美味しく感じるのはなぜだろう？

「豊かさ」とは何だろうか？「ぜいたく」とは何だろうか？ガツガツたくさん食べることが「豊かさ」や「ぜいたく」であろうか？話の中で筆者は、『食べる量、使う量、その物量の多寡だけで、ぜいたくさや豊かさが決まるわけではない』と述べている。りんご一つでも、それを食べる時、我々はその味以外に何を味わっているのだろうか？



**いやしいぜいたくもあるし、
美しいぜいたくもある。
冷たいケチもあるし、温かい
儉約もある。**

お金より、家族、友達などの温かさ、幸せを感じられるのが、「豊かな生き方」だと思います。他の人から見たらただのガラクタでも、その人からしたら友達にもらった大切な宝物だったりすると思います。

当たり前だと思っている日常を見渡して、小さなことでも感謝して、みんながいることを嬉しいと思える生き方をするのは「豊か」だと思う。「いただきます」を言わなくなって、ブタのように大食いしたり、使ったら捨てたりするようになってきたら、ぜいたくさ、豊かさを無くし、人との関わりが消えていき、暗い世界になっていくなと思う。常に「ぜいたく」ということを忘れない。

何事も当たり前と思っはいけないと思う。どんなにみんなが認めた高級料理を一人で食べるより、スーパーで安いものを買って家族でわいわい食べた方が、心から「美味しい」と思えるのではないかと思った。一番は、新しいものが出たら買い換えるより、一つのを大切に使って思い出をつくる方が良いと思う。

友達や家族との時間をもっと大切にしたいと思った。よく考えてみると、私はプールが終わってからごはんを食べるのだが、一人で食べる時と、みんなで喋りながら食べる時だと、みんなで食べる時の方が美味しいなと思ったし、時間がすぐ経つ気がするなと、ふと思いました。

豊かな生き方は、人それぞれ感じ方が違うと思うけど、美味しいものを食べたときに、共感してくれる人や、反応してくれる人、そんな人がいてくれていること自体、豊かな生活ができているなと思った。周りにもものがある中で生きていることに感謝したい。



「貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、かぎりなく多くを必要とし、もっともっとほしがることである」
このことばは、人間にとって何が大切かを教えています。

「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」20頁

ウルグアイ第40代大統領 ホセ・ムヒカ